

# Kandai Style

2022.11 Vol.502  
関西大学通信



第45回

関西大学統一学園祭

第45回

# 関西大学

# 統一学園祭

開催日程 2022年11月3日(木)祝～11月6日(日)

3年ぶりに千里山キャンパスで開催する統一学園祭。祭典実行委員を務める約800人の学生は、感染対策を講じながら長期間にわたって懸命に準備に取り組んできました。代表して4人の祭典実行委員に、意気込みや見どころを聞きました。皆さんぜひ学園祭と一緒に楽しみましょう！

今年度のテーマ 0からの祭起動

今年度のテーマは「0(ゼロ)からの祭起動」。0から学園祭を創り上げ、新たな一歩を踏み出すことで、もう一度行動するという希望をたくさんの人に与えよう、というものです。また「祭起動(さいきどう)」には「祭り」「起こす」「動かす」という意味の文字が使用されています。これには、関大生を含むたくさんの人々の心を動かし、本学や地域住民の皆さん、来場者の方々に笑顔と活気を呼び起こすような学園祭を創り上げたいという意味が込められています。



統一学園祭ウェブサイト



統一学園祭実行委員会 常任委員会委員長

経済学部 3年次生

泉谷 哲平 さん

**おすすめ企画** 統一学園祭のフィナーレを飾るのが「後夜祭」です。参加する学生、ステージでパフォーマンスを披露する学生、みんなが笑顔で一番わくわくした状態で絶対に盛り上がると思います！

**見どころ** すべてが見どころです。第45回関西大学統一学園祭のテーマ「0(ゼロ)からの祭起動」の通り、0を1に押し上げることを目標にしてきました。祭典実行委員全員がキャンパスで開催する対面の統一学園祭を経験していません。誰も知らない状態から創り上げ、必ず成功させたいです。

そして、良い意味で伝統を壊して新しい学園祭にしたいと、これまでの歴史や伝統についても勉強してきました。今までとはひと味違う学園祭をお見せできると思いますのでご期待ください！



**統一学園祭への思い、意気込み** 感染対策などできることは何でもやって4日間の学園祭をやり抜きます！

1年次から祭典実行委員の活動を続けてきて、コロナ禍でしたがずっと楽しく過ごすことができました。2年次生は「今年はキャンパスで学園祭ができる！」と楽しみで仕方がなかったのですが、コロナの感染状況がひどくオンライン開催となりすごく悔しい思いをしました。それがバネになり、3年次生は常任委員会委員長に立候補することを決めました。今年は学園祭に携われる最後の年。必ず成功させます！

**来場者へのメッセージなど** たくさんの方に来ていただきたいのですが、特に大学生と高校生に来てほしいです。コロナの影響で青春を失った学生は多いと思います。それを今年の学園祭で取り戻してほしい。参加して「楽しい学生生活だった！」と言ってもらえたらうれしいです。

**おすすめ企画** 悠久の庭の中央ステージで行う、音楽、ダンス、お笑い、後夜祭の4つの企画がおすすめです。その中でも私が1年次から企画に携わっている「Kandai Dance Festival」に注目してほしいです。出演するダンスサークルのパフォーマンスは迫力があってカッコいいですし、今年は生で見られるのでぜひご覧ください。



**見どころ** 実際にキャンパスに来ていただく楽しみるところです。昨年と一昨年の学園祭はオンライン開催だったので、1～3年次生はキャンパスで開催する学園祭を知らないのです。今年は延べ100を超える模擬店も出店しますし、関大のことをよく知らない方にもお祭りに行くような感覚で楽しんでいただけたらと思います。気軽に遊びに来てほしいです。また、後夜祭の最後には花火を打ち上げるので、締めくくりまで見てください。



統一学園祭実行委員会 常任委員会企画管理局長

政策創造学部 3年次生  
大山 雄代 さん

**おすすめ企画** FUNKY MONKEY BABY'Sのライブがおすすめです。どの曲を聞いても「この曲知ってる！」と、感じていただけたらと思います。生で聞ける迫力をお楽しみください！

**見どころ** 3年ぶりにキャンパスで対面の学園祭を開催できることです。私にとっても初めての統一学園祭。大学にたくさんの方が集まるのを初めて目にするのでわくわくしています。コロナ禍に入学した学生にとっては記憶に残る光景になるのではと思っています。学園祭に来ていただくことでいろいろな出会いがあったり、経験できたりすることがあると思います。来てくださった方に笑顔で帰っていただけたらうれしいです。

**統一学園祭への思い、意気込み** 入学した2020年から2021年は、コロナ禍でほとんどの活動ができず、私に

**統一学園祭への思い、意気込み** 来年につながるような学園祭にすることが私たちの役割だと考えています。今年、来てくださった方に安全に楽しんでいただくことができれば、来年はもっと来場者が増えるはず。そして、コロナが終息した時にはさらにたくさんの方に足を運んでいただけるように、まずはその一歩になればいいと思います。

また、約800人いる祭典実行委員が企画から運営まで携わり、一人一人が役割を担って活動してきました。全員に「祭実になって良かった」と思ってもらえるように頑張ります！

**来場者へのメッセージなど** 学園祭でライブやトークショーなどの大きな企画ができるのは大学ならではです。関大生をはじめ、高校生や地域住民の皆さんが笑顔になって、「楽しかったね。また行きたいね」と言ってもらえればうれしいです。



統一学園祭実行委員会 統一企画構成委員会委員長

商学部 3年次生

伊藤 恒輝 さん

**おすすめ企画** 中央ステージでの企画にぜひ注目いただきたいです。オープニングセレモニー、エンディングセレモニーなどの統一学園祭のメインとなるような企画は、見ると心が晴れると思います。また、関西大学学生チーム「漢舞」は、ステージを目いっぱい使って活気溢れるパフォーマンスを披露してくれます。

**見どころ** 課外活動の成果発表や芸能人を呼ぶライブ企画が見どころです。気持ちとパッションを込めて準備してきたので、それを来場してくださった皆さんにお届けできたらと思っています。まず関大生に楽しんでもらって、みんなが喜んでる姿を見ることができたら幸いです。3年ぶりのキャンパスでの対面開催ですので、4年次生や卒業生に学園祭を思い出してもらって、1～3年次生には「楽しい！」という気持ちを感じてもらえたらうれしいです。

**統一学園祭への思い、意気込み** 祭典実行委員になって3回目の学園祭です。2年間はオンラインでの開催でしたので、やるせない悔しい思いを抱えながら祭典実行委員を務めてきました。今年のテーマ「0(ゼロ)からの祭起動」を達成すべく、土台を築いて完成度の高い学園祭をどこまで創り上げることができるか、日々話し合いながら活動してきました。すばらしい学園祭になるよう、全員が妥協せず全力で取り組んできたので、最後までやり切ります！

**来場者へのメッセージなど** 絶対に来ててください！

としては空白の2年間でした。通常、学園祭は2年次生の祭典実行委員が中心になって企画から運営を行うのですが、今年は3年次生約70人が引き続き活動を続けています。全員が「今年こそはキャンパスで開催するぞ！」と気合いを入れて、長い時間をかけて準備してきました。学生生活の思い出に残るような学園祭にしたいとみんな頑張ってきました。

**来場者へのメッセージなど** しっかりと感染対策を講じて開催しますので、一つでも思い出を作って最大限楽しんで帰っていただけたらうれしいです。そして、記憶に留めてほしいです。皆さん楽しいことができない時間を過ごしてきたと思います。学園祭に参加することによって、コロナ禍以前の楽しい気持ちを取り戻していただけたらうれしいです。



統一学園祭実行委員会 統一企画構成委員会ライブ局財務

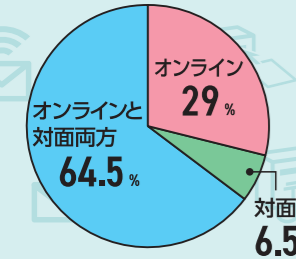
システム理工学部 3年次生

浪口 才人 さん

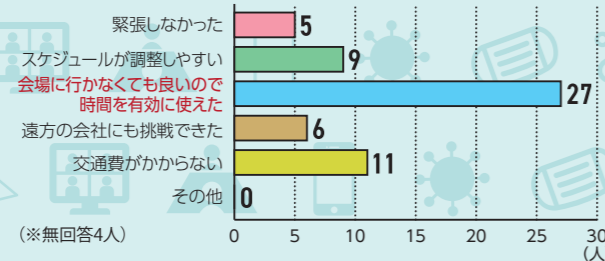
# コロナ禍で変化した就職活動を振り返る

アンケート期間：  
2022年7月1日(金)～31日(日)  
対象者：学生  
(就職活動を体験した4年次生とM2年次生)  
回答者数：62人

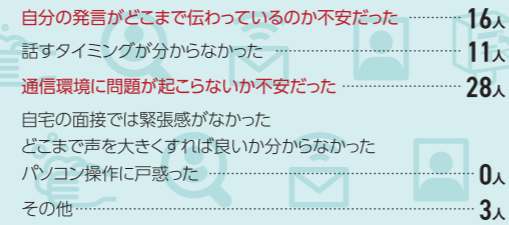
## 就職活動で経験した面接方法について



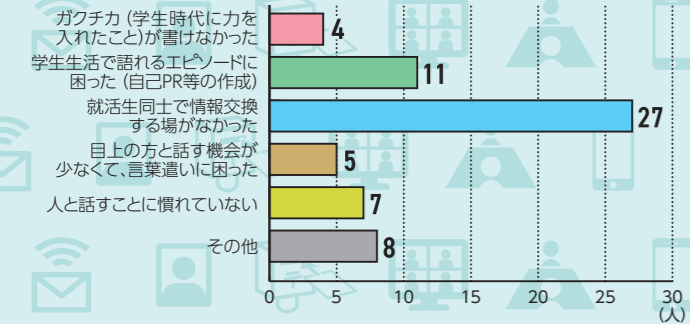
## オンライン面接で「良かった」と思うこと



## 「困った」と思うこと



## コロナ禍での就職活動で、「困った」と思うこと



### まとめ

面接方法で一番多かったのが「オンライン、対面の両方」(64.5%)です。コロナ前なら面接は対面がほとんどでしたが、昨年は多くの企業がオンライン面接を採用し、今年はオンラインと対面双方の利点を生かしながら「オンライン、対面の両方」に落ち着いたというのが実情ではないでしょうか。それでもオンライン面接が増えたメリットを生かして、学生は就職活動を行っていたようです。オンライン面接で「困った」理由として「通信環境の問題」「自分の発言が伝わっているのか不安」が目立ちましたが、反対に、オンライン面接が「良かった」理由は、「会場に行かなくても良いので時間を有効に使えた」が突出していました。交通費が不要、スケジュールが調整しやすい、などの理由から多くの企業にチャレンジできた様子が伺えました。

## コロナ禍での対策

企業によっては、コロナに関するエピソードを求められることもあり。コロナ禍におけるゼミ活動を言語化しておくことで、面接で悩まずに話せました。(経済学部)

オンライン面接のため、相手の目を見て話すのではなく、カメラに目を向けることを意識しました。(理工学研究科)

コロナ禍での面接では通信環境に問題があると、企業に「事前準備を怠る人なのかな?」という印象を抱かれてしまうので、通信環境を早く整えるようにしました。(法学部)



オンライン面接では、画面写りを良くするためにLEDライトを準備。また音質や通信状況を良くするために新しいイヤホンやWi-Fiに変えました。(法学部)

オンライン面接はオーバーにリアクションを動きで取った方がいいと思います。(理工学研究科)

友達に相談をする機会もなかなか取れなかったので不安でした。そこで、エントリーする企業の数を増やして、とにかく場数を踏むようにしました。(社会安全学部)

オンライン対策として、見え方や聞こえ方、画面の明るさなどを知人と練習することで最適な環境で就職活動が行えるようにしました。(理工学研究科)

オンラインの強みを利用して、さまざまな企業のインターンに参加。そうすることで自分の興味を知ることができたと感じています。(文学部)

他の就活生と直接話す機会が少なかったため、Twitterを使って情報収集しました。(文学部)



2022年度はコロナ禍3年目ということもあり、企業側は過年度の改善点を含めた採用活動が行われていますが、学生にとっては初めてのことであり、戸惑いを感じながら就職活動を進めていたのではないのでしょうか。そこで今月号の誌上教室では、「コロナ禍で変化した就職活動を振り返る」をテーマに、4年次生とM2年次生にコロナ禍での就職活動を振り返ってもらい、コロナ対策と後輩の皆さんへのアドバイスをお聞きしました。そして、キャリアセンター所長の小林剛教授には、アンケート結果を含めて今年度の就職活動を解説していただきました。



二宮大星さん  
(法学部4年次生)

### 企業を徹底的に調べ上げたOB・OG訪問

就活では、キャリアセンターにあるOB・OG名簿を活用して30～40人の方と話をすることができたので、OB・OG訪問が一番役に立ったように思います。コロナ禍の就活で、ほとんどがZoomでのやり取りとなったおかげで全国各地の卒業生と話をすることができたのも私にとっては幸いでした。卒業生から仕事に対する価値観や働き方などを聞き、貴重なアドバイスをいただいたことが、自信につながりました。しかし最初の頃は、企業のことを全く調べず、ただ単にOB・OG訪問に臨んでいましたが、あるときからその姿勢を注意され、準備の大切さを学びました。それからは企業の現状を徹底的に調べ、疑問点を整理してOB・OG訪問や面接に臨むようになったのは言うまでもありません。3年次生以下の皆さんもOB・OG訪問の際は、事前準備を徹底して臨んでください。この経験が面接の練習となり、本番は緊張せずに自分の思いをしっかりと伝えられると思います。

### プライベートブースを活用して面接対策

「早めに動く」「情報収集を小まめにする」「準備が大事」など、就活に関するキーワードはたくさんありますが、キャリアセンターに通えば、その全てを教わることができて、面接対策も教えていただけます。そのキャリアセンターの中で、私が一番お勧めするのは「プライベートブース」です。

このブースは昨年6月に新設されたもので、遮音性に優れ、パソコンの後ろにある常設の照明を点ければ綺麗な画質で自分をウェブカメラに映すことができます。そのため授業の合間に会社との面接がある場合は、いつも予約して使用していましたが、こんなに自由に使うことができるのはなぜか、と時折疑問に思っていましたが、このブースの存在を知らない学生が多いのではないのでしょうか。ブースは使いやすく、非常に便利な場所にあります。就活を間近に控えた皆さんはもっとブースを活用して、納得のいく就活をしてほしいと思います。



久保田陽さん  
(政策創造学部4年次生)



### 後輩へのアドバイス

自分が何をしたいか決まっていなくても、セミナーやインターンシップを通じて、何がしたいのかを把握することから始めていきましょう！(総合情報学部)

まずは行動してみる事が大事です。コロナ禍になって、就活生との交流が減ったため、どれだけ他の人が動いているかわかりません。そのため、どんどん自分から情報収集するのが良いと思います。(文学部)

コロナ禍で一番大変だったのは友達との相談や情報交換の難しさでした。そんなとき、友達はもちろん、キャリアセンターやゼミの先輩などに相談してみることでかなり動きやすくなると思います。(社会安全学部)

就活は準備が全てだと思います。早くから行動して、自分が少しでも興味のある職種を見つけてください。関大には企業セミナーやES対策をしっかりとってくれるキャリアセンターがあるので心強かったです。(政策創造学部)

その会社に応募しようか少しでも迷ったら必ず応募してください。(外国語学部)

1年間の努力で、理想の人生のスタートラインに立つチャンスをつかめるので、ポジティブに、前向きに頑張ってください。ただ、人間は頑張り続けることは難しいので、適度な息抜きをして体調には気を付けてください！(法学部)

早く内定を取ることよりも、納得できる就活を目指してください。そのためには、自己分析が欠かせません。就活が自分と本気で向き合う良い機会だと捉えてください。(社会学部)

逃げていても就職先は決まらないので先延ばしにすることなく自分を見つめ直す機会であり、大人になるための一歩だと思って頑張ってください。(商学部)



### PROFESSOR'S COMMENTS

キャリアセンター所長  
文学部 小林剛教授

「学生さんに我が社のことをどうやって伝えればいいのか、そこが一番苦労したところで、いまだに試行錯誤中です」。キャリアセンターで少しずつ企業訪問を再開していくなかで、とくに

BtoB企業の方からよく聞いたのがこういった意見でした。就職活動のあらゆる場がオンラインに移行すると、学生はどうしても企業名で検索してエントリーし、説明会などに参加することになるわけですが、その際に「一般消費者としては名前を知らないけれどもBtoB企業としては非常に優良」といった会社と出会う機会が著しく減ってしまったのです。

コロナ禍以前、本学は全国の大学のなかでもキャンパス内で

人事の方と会える企業数が圧倒的に多いことで有名でしたが、そうした多数の企業が一堂に会するような場では「名前を知らない優良企業と運命的な出会いがあった」ということがしばしば起こります。オンライン就活の利便性は一方で出会う機会の喪失に繋がっているかもしれないということを念頭に置いて、これから随時復活していく対面の学内イベント等にも面倒くささらず積極的に参加してもらいたいと思います。

### 次回のテーマは…「情報セキュリティについて」

近年、さまざまな組織において情報漏洩やUSBメモリ紛失などの事件が発生しています。そこで12月号では、危機管理的な側面から情報セキュリティについて学生に問い掛け、理解を深めます。



サービス業／スーパーバイザー

株式会社オリエンタルランド

## 中谷 有希さん

東海大学付属大阪仰星高等学校出身  
2020年政策創造学部卒業

### いきいきと働く母の姿から学んだ しっかり話を聞き寄り添うことの大切さ

株式会社オリエンタルランドの商品販売部でスーパーバイザーを務める中谷有希さん。学生時代から人材育成に関心があり、「働く人を育成できて、働くことで自己実現できる環境を作り出す」仕事に就きたいという思いがありました。そんな中、楽しく働く人たちを育成している株式会社オリエンタルランドを知り、人材育成について学び、そのノウハウを社会に広げていける人材になりたいと思い入社しました。

中谷さんは、テーマパーク内の担当店舗の売り上げ管理と商品管理、そしてキャストの労務管理と人材育成に携わっています。入社当時は、自分よりも経験年数が多いキャストを教育することにプレッシャーを感じることもあったと言います。キャストからのキャリア相談に対して心掛けたのは、しっかりと相手の話を聞くこと。本当にやりたいことは何かを深掘りし、目標を立て、そのためのプロセスと一緒に考えます。伝えて終わりではなく、その後の経過の確認も欠かしません。「一番距離の近い、相談役みたいな感じです」と中谷さん。約300人のそれぞれの背景や考えを知るため、積極的に話し掛けているうちに、仕事だけでなく私生活の相談もされるようになりました。毎日多くのゲストが、一人一人いろいろな思いと期待を持ってテーマパークを訪れます。大切な思い出のシーンに選んでいただける、そこに立ち合うことができる仕事にやりがいを感じているそうです。

学生時代は、海外でのインターンシップや、京都でのガイドボランティアに参加しました。その中で、人はそれぞれ異なる背景を持っていることを再認識し、密にコミュニケーションを取り、壁を取り払うことの大切さを学びました。さらに、政策創造学部で学んだ一つの事象を多面的に捉える視点や考え方が、仕事の上で大きな力になったと話します。

「コミュニケーションが得意でなくても、まずは自分のことをしっかり伝える。そして、相手の話をしっかりと聞く。理解しようとする姿勢が大事です」とエールを送りました。

ある1日の  
スケジュール

7:00	出勤
	情報収集、開園準備
8:00	開園、店舗巡回
9:00	売上目標の設定
10:00	ミーティング
11:00	昼休憩
12:00	キャストとの面談
13:00	店舗巡回
14:00	新企画考案
15:00	業務申し送り
15:30	退勤



必須アイテムは、カラーペン、園内の情報をまとめた自作のノート、時計とポーチ。

# Supervisor

# VIVA!!

## 学び易



化学生命工学部 化学・物質工学科

## 「化学・物質工学ゼミナール3」

上田 正人 教授

# No Materials No Life

### 柔軟な視点がマテリアルの可能性を広げる

上田正人教授の「化学・物質工学ゼミナール」では、生体硬組織に関連する金属・セラミックスなどのマテリアルについて研究をしています。学生は、バイオマテリアル、結晶性材料における原子配列の乱れ、半導体の光応答を利用した組織構築、サンゴ礁の再生など、各々がテーマを選択して研究を進めています。

一見関連性がない研究テーマでも、知識や技術の上で重なる部分が多いため、テーマに関係なくあらゆる分野の知識を学ぶことが大切だと上田教授は語ります。例えば医療材料の研究に使う成膜装置は、サンゴ礁再生の研究で活用できますし、体内埋入デバイスの約8割は金属でできています。異なる分野の知識、研究方法、課題や解決方法を知ることで、それぞれの研究のヒントになる上、新たな切り口につながることも多いそうです。

そのため、上田教授の研究室に在籍する学生は、各研究分野の講義に出席して研究の進捗状況を共有し、論文読解や議論を行います。自学自習と日本語の指導も重要だと考えている上田教授は、研究は他者にアウトプットをして初めて完結するため、研究発表では意図が伝わる日本語を求め、主要な助詞の使い方まで指導します。

「マテリアル、つまり素材についての研究は注目されることはあまりありませんが、日々の生活を支える必要不可欠なものです。間違いなく重要で、面白い分野でもあります」と上田教授は話します。規則正しく並ぶ原子の10万分、100万分の1個の欠陥から、新たな特性のマテリアルが生まれます。その発見がジェットエンジンの耐熱度を上げる素材の開発につながり、より速く効率的に飛行機を飛ばすことを可能にします。「医療だけでなく、日用品、乗り物など、世界は全て物質でできています。研究を通して少しでもマテリアルに興味を持ってもらえればうれしいです。マテリアルから社会を変えていきたいと思う学生や、地道な研究活動の中に楽しさを見つけられる人は、ぜひ研究室に来てください」と締めくくりました。



上坂菜々子さん(理工学研究科M2年次生)

材料工学やサンゴ、金属、細胞学など異分野を融合させた研究に興味があり、この研究室を選びました。再生医療技術を利用したサンゴの高効率増殖に関する研究をしています。顕微鏡でサンゴのポリプ(軟らかい組織)を観察するのは地道な作業ですが、今ではその状態の良し悪し分かるようになり、研究の楽しさや達成感を感じています。将来の夢は材料工学の視点から、新たな医療デバイスを開発することです。



炭崎清香さん(理工学研究科M2年次生)

学部ではバイオを専攻していたため、マテリアルを専門とする研究室の中でもバイオの研究ができる上田研究室を選びました。現在は細胞培養器に光を当てて細胞の配置をコントロールする研究をしています。上田教授の環境材料研究室にはマテリアルだけでなく、興味や関心のあることに挑戦できる環境が整っていますので、得られた知識や経験が多く、やりがいのある研究に取り組んでいます。

# 関西大学と豊かな緑

## ——サクラだけで1300本が春先に満開——

関西大学は「緑豊かな大学」で有名です。それもそのはず。千里山キャンパスはもともと風光明媚であった千里山丘陵の一部に建設された経緯があるからです。それから100年。さまざまな整備が行われた「学園の緑」を紹介します。

### 花見客らでにぎわう遊園地と隣り合わせ

関西大学はその前身「関西法律学校」として1886(明治19)年に大阪市西区の願宗寺でスタートしましたが、大学昇格に伴い100年前に「千里山学舎」を建設しました。この敷地の直近にはなだらかな丘陵を活用した千里山花壇という有名な遊園地があり、春のサクラやツツジの花見、夏の納涼で大にぎわいでした。



大学昇格100年を記念して整備された第2学舎1号館前の緑陰

### 大学昇格100年で記念の緑化と整備

この丘陵の緑を生かしたさまざまな整備が戦前から行われました。直近では大学昇格100年を記念して、2022年春、第2学舎1号館の前にある植え込みを整備しました。中興の祖と言われる山岡順太郎の銅像と青春の像を小道で結んだり、ベンチを配置したりするなど緑の中で一息つける空間づくりです。その結果、ゼミやグループ活動の学生が、木々の間でミーティングをする姿が目立つようになりました。

### サクラの名所となったキャンパス

樹種で目立つのはサクラです。現在は約11種、1300本が毎年入学式の頃に満開となり、新入生を歓迎します。この陰にはたゆまない土壌改良の歴史があります。元々この丘陵地帯は砂質で多くの樹木にとって良い環境ではなかったのですが、こまめに手入れをすることによって、サクラは元気に育ちました。



### 各キャンパスに豊かな緑

サクラが散り始める頃、サツキやツツジなどが次々に開花し、年間を通して剪定などの手入れが欠かせません。こうした努力の結果、多くの樹木や草花が育ち、学生や市民の目を癒してくれます。



### 夜間も安全・安心なキャンパスへ

夜間の視認性、景観の向上と省エネルギー化を目指して、外灯照明のLED化を進めています。また、千里山キャンパスの特徴的な建物、代表的な樹木をライトアップし、昼間とは別の魅力を引き出すことも目指しています。照明の専門家にも助言をいただきながら、今年度中の完了を目指しています。



人間健康学部 2年次生

# 神山 太一さん

攻守の要は、先を読み判断して動く力

神山太一さんが所属する体育会アイスホッケー部は、今年6月に開催された関西インカレで12大会連続24回目の優勝を果たしました。さらに、昨年11月に行われた第68回関西学生アイスホッケーリーグ戦ではチームを優勝に導き、最優秀新人賞に選ばれました。

北海道出身の神山さんがアイスホッケーを始めたのは3歳の頃。社会人チームの選手だったお父さんの影響です。関西大学の監督から声が掛かり、地元の幼馴染も本学のチームに進むことから入学を決めました。関西大学は、関西で唯一キャンパス内に専用のスケートリンクを持つため、試合直前まで練習できるのが魅力の一つ。授業後は堺キャンパスから千里山の寮へ帰宅して、すぐに練習場の「たかつきアイスアリーナ」に向かいます。毎日23時半まで練習に取り組みながら、家事や栄養管理もこなし、学業と部活動の両立に励んでいます。

アイスホッケーの魅力は、「氷上の格闘技」とも呼ばれるアグレッシブなプレーと、攻守が目まぐるしく入れ替わるところ。1ピリオド20分、3セットという試合時間の中で、体力の消耗が激しいため、30秒～1分間ほど出場しては交代を繰り返します。神山さんは攻守の要として、ゲームメイクを担うフォワードの中心に位置するセンターを務めています。試合開始5秒でゴールが決まることもあるほど、相手選手が迫るスピードも速いため、パスを受ける前に味方の動きを予測し、どのようにパスをつなげるかを瞬時に判断することが求められます。

昨年12月の全日本インカレで関東の大学と初めて対戦した神山さんは、体格やスピードの差を痛感。「関東の強豪校に勝つためには、より速く動くための体づくりと、判断力を鍛える必要があります。そのため、シュートやパス練習の際は、相手のディフェンスやキーパーの存在を想定して動くことを心掛け、チームメイトと練習を重ねています。関東のチームに勝ち、全国優勝を目指します」と目標を語りました。



昨年12月の全日本インカレの神山さん

今回は、神山さんからのご紹介で久保智聖さん（人間健康学部2年次生）が登場。お楽しみに！

# Taichi Koyama

# 学部・研究科・併設校トピックス

## 法学部 / 法学研究科

### 秋は思索にふける季節

新年度が始まって半年以上が経ち、学生生活にもバリエーションが出ていることと思います。同時に、勉強や課外活動、バイトや私生活に至るまで、いろいろと思い、悩むことも増えてきたかもしれません。学生時代ほど思索にふける時間のある時期はありません。弱みにつけこむ輩には注意しつつ、勉強にもそれ以外にも頭を使ってみてください。深い思考力は一生の宝物です。ただし、使いすぎて疲れたら、スポーツで汗を流すなり音楽を聴くなり、思い切りストレス発散することも忘れずに。

(原弘明教授)

## 文学部 / 文学研究科 東アジア文化研究科

### 「学び」と「出会い」

春学期から、文学部のオンデマンド配信授業が本格的に始まりました。反応は上々で、「自分のペースでできる」「授業に集中できる」「質問がしやすい」といった感想が目立ち、大多数が「増やしてほしい」と回答しました。

一方で、対面授業でグループワークを楽しむ人がCOVID-19以前より増え、この閉塞感の中で「人恋しさ」が表面化したのだと感じます。忘れていたものに気付かされた2年半でした。大学の「学び」と「出会い」を大切に、日々を過ごしてください。

(篠原啓方教授)

## 経済学部 / 経済学研究科

### ゼミ募集開始

経済学部では新カリキュラムになってから初めてのゼミ募集を実施しています。ゼミに入ると少人数で専門科目についてより深く勉強できます。またさまざまなゼミ活動を通して多くのことを経験することができます。経済学部には理論を深く勉強するゼミやプレゼンテーションに力を入れているゼミ、フィールドワークを行うゼミなどさまざまなゼミがあります。大学生活での醍醐味の一つは間違いなくゼミです。

ゼミに入ってあなたの大学生活を充実させましょう。

(榎原雄一郎教授)

各学部・研究科・併設校のさまざまな活動や取り組みなど、トピックスや皆さんへのメッセージをお届けします。

## 商学部 / 商学研究科

### TASプログラム、始めました

商学研究科のTASプログラムは、税理士の資格取得の支援、税務の学際的(法学・経済学・会計学)学習、税理士法人などでのインターンシップが特徴です。12月頃には、このプログラムと関大会計人会の共催で税務のセミナーも開催(公開)しています。税理士試験の科目合格者には、入試で試験の専門科目の免除もあります。税務を極めたい方の入学をお待ちしています。一緒に学びましょう。ウェブサイトもあります。

(副学部長 石田和之教授)

## 社会学部 / 社会学研究科

### 3年ぶりの対面開催に期待

本学の統一学園祭は毎年学生たちが署名活動による実行委員会の結成から企画、運営など全ての過程を手掛けるまさに学生主体の大イベントです。過去2年はオンラインでの開催を余儀なくされたため、現役生の半数は対面での学園祭を経験していません。今年こそはさまざまな学部や部活、サークルの皆さんが大勢の観衆の前で日頃の成果を披露できることを切に願っています。十分な感染対策を施しつつ、ポストコロナ時代の新しい学園祭を見せてください!

(松田剛准教授)

## 法科大学院

### 司法試験合格発表をうけて

9月6日に令和4年司法試験の合格発表が行われ、本法科大学院修了生から15人が合格しました。合格率は28.3%であり、昨年(11.8%)から大幅改善となりました。

本法科大学院は、司法試験合格までのサポートのみならず、修了生の就職支援活動にも力を入れており、就職支援委員会と関大法書会による強力なバックアップ体制を整えています。

合格に達しなかった修了生や、今後司法試験に挑む在学生のさらなる飛躍に向け、本法科大学院は引き続き正課外講座にも力を入れ、積極的な教育改革に取り組みます。

(入試主任 佐川友佳子教授)

## 政策創造学部 / ガバナンス研究科

### 政策公務セミナー

政策創造学部では、公務職に関心のある本学部生を対象に「政策公務セミナー」を実施しています。2022年度春学期は、キャリアセンター職員による説明会「公務員試験のしくみをしよう」のほか、大阪府・大阪市職員の方による講演会「大阪府・大阪市の取り組みについて」や、大阪地方裁判所職員の方による「大阪地方裁判所業務セミナー」が実施されました。秋学期には「本学部卒業生による講演会」および「公務員試験合格者との対話会」なども予定していますので、関心のある方は奮ってご参加ください。

(森田崇雄准教授)

## 外国語学部 / 外国語教育学研究科

### 秋の夜長

映画監督の小津安二郎の作品は、「麦秋」や「秋日和」など、タイトルにしばしば「秋」を含みます。国際的に評価の高い監督ですが、皆さんは小津作品を見たことがありますか?古い映画なので難しそうだと感じるかもしれませんが、現代にも通じるような家族の問題を多く扱っています。一方、現代ではあまり目にすることもなくなった美しい所作の登場人物が印象的な作品も残っています。秋の夜長に、小津作品の鑑賞を通して日本文化について考えてみるのはいかがでしょうか。

(阿南順子教授)

## 人間健康学部 / 人間健康研究科

### 地域の中にあるキャンパス

コロナ禍で開催できていなかった堺キャンパス祭を今年は3年ぶりに開催することができました。子どもから高齢の方まで多くの地域住民がキャンパスにあふれ、またイベント・出店などにも関わってくださいました。堺キャンパスでは数々の地域連携事業に取り組んでおり、地域住民や地元のNPOとの活動をすでに経験している学生がいる一方で、このキャンパス祭の機会を通じて初めて、地域の方々の大学や地域への関心を知り、まちづくりへの関心が触発された学生も少なくありませんでした。

(学部長 所めぐみ教授)

## 総合情報学部 / 総合情報学研究科

### 古墳がやってきた!?

今年6月まで博物館で展示されていた「高松塚古墳石槨原寸大模型」が、会期終了後、高槻キャンパスにやってきました。原寸大模型の大きさは、幅2m×高さ1.5m×奥行3mの発泡スチロール製で関西大学博物館が制作したのですが、本学部の林武文ゼミが、この原寸大模型を見ながら、石室の内部をHMDゴーグルかタブレットPCで眺めることができるVR/ARコンテンツを開発しました。8月27日開催のオープンキャンパスでも展示され、高校生たちの興味を引いていました。

(学部長 名取良太教授)

## 社会安全学部 / 社会安全研究科

### 海ごみゼロで、SDGs!

SDGs促進のため、日本財団と環境省の共同事業の一つである「海ごみゼロウィーク」に参加しました。キャンパス周辺のみならず、大阪府民の森などでも、学生が積極的にごみを拾いました。この模様は、ラジオ大阪「あれもこれも!SDGs」(6月29日)で特集されました。

(学生主任 近藤誠司教授)



### 卒業研究発表会予選会・本選会を開催

高等部プロジェクト学習の集大成として、5月28日に卒業研究発表会の予選会を開催しました。ここでは3年生全員が7分間の研究発表と2分間の質疑応答を行い、教員や生徒のルーブリック評価をもとに、各ゼミから優秀発表者が決定しました。さらに、優秀発表者の中から、4人が選出され、6月11日の本選会において12分間のプレゼンテーションを行いました。3年生の素晴らしい発表は、1・2年生にとって、これから目標を持って研究を進めていく良い機会となりました。

(研究開発主任 釈慶樹教諭)

## システム理工学部・環境都市工学部・化学生命工学部 / 理工学研究科

### バックカasting

今この原稿は8月に書いているのですが、この原稿が皆さんの目に届くのは11月になります。8月の時点では、コロナの第7波がまさにピークに差し掛かろうとしているのですが、3カ月後はどのように変わっているのか、想像が付きません。私はこの9月にヒューマンインタフェース学会という学会のシンポジウムを本学に招致して、開催しようとしています。シンポジウムのテーマは「Interface」ということで、対面での研究者間の議論ができるようにと気持ちを込めたのですが、さて無事に対面で開催できたでしょうか。

我々は将来何が起こるかを予想(フォーサイト)して、その将来の社会に向かって、今できることから行動していこうと考えます。ところが、この数年間、社会の状況を予想することが困難になってきました。そこでバックカastingが注目されてきました。将来の社会のためにできることから行動するというより、我々が期待する将来に向けてその期待する将来像を設定し、それに対してどのような行動が必要なのかを逆に考えていこうというものです。例えば内閣府で提案されているSociety5.0は今後我々が迎えるべき未来を描いているのですが、Society5.0

をもとにした具体的な研究推進の手段についてはバックカastingの方法で立案されています。企業や大学のSDGsの取り組みについてもバックカastingの概念が用いられています。皆さんが大学を卒業する時は明確に定まっています。その時にどのような将来像を描いておられるでしょうか。その将来像に対してこれからどのように大学で学び、自分を高めていくのか、バックカastingにより考えてみてはどうでしょうか。

(システム理工学部 小谷賢太郎教授)

## Attention 大学からの重要なお知らせ

### 「KANDAI×HOSEI SDGs WEEKs 2022」の開催

関西大学と法政大学は、SDGsの達成に向けて、今年度も「KANDAI×HOSEI SDGs WEEKs 2022—実践知を磨き、考動する2週間—」を開催します。

本イベントは、皆さんがSDGsを実践するにあたって必要な「実践知」を磨き、持続可能な社会の姿について主体的に考えて動くための多様なプログラムを実施するものです。

本学でSDGs達成に向けて取り組む部局、団体やゼミ、関西大学SDGsパートナー団体の活動を、SDGs WEEKs 企画として周知しますので、気軽にご参加ください。

なお、開催方法は、新型コロナウイルス感染症の流行状況や本学が定めている事業活動レベルに応じて変更となる場合がありますので、その場合は改めてインフォメーションシステムでお知らせします。



日時: 2022年11月21日(月)~12月3日(土)  
場所: 関西大学キャンパス等(オンライン配信併用)  
企画: 本学学生、併設校生徒、教職員並びに関西大学SDGsパートナー等を対象としたSDGs達成に資するセミナー、ワークショップ、キャンペーン企画およびゼミ活動発表等  
その他: 講演会企画は、原則的に対面とZoomを併用して開催します。

#### <現在決定している企画(2022年10月7日現在)>

1. 福島復興セミナー「ふくしまの今を語る人」  
11月24日(木) 16時20分から、福島県の農林水産業関係者が放射性物質低減の取り組みや生産者の思い等を説明します。
2. KANDAI×HOSEI SDGsアクションプランコンテスト本審査(発表): 授賞式  
12月3日(土) 13時から、SDGsを達成するために実現可能で、複数のゴールに関連するアクションプランの発表・表彰式を行います。

問い合わせ先: KANDAI for SDGs推進プロジェクト 事務局 (Email: kusdgs@ml.kandai.jp)



## 関大トピックス

### 「関西大学フェスティバル in 関西」を開催

千里山キャンパスで10月9日、大学、校友会、教育後援会の共催イベント「関西大学フェスティバル in 関西」を開催しました。大学昇格100年を祝して、校友会が主催する恒例行事が大幅に拡大され、学生・校友やその家族、教職員・地域住民など、老若男女だれもが楽しめるお祭り企画となりました。

本学校友のお笑い芸人やアーティストが多数出演した「お笑いステージ」や「アーティストライブコンサート」の会場は熱気に包まれ、「関大グルメフェス」には食品・飲料業界で活躍する校友や関大前商店会のお店が出店しました。

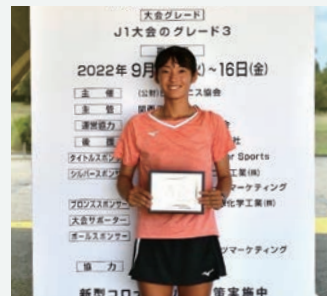
同日、「まちFUNまつり2022」も3年ぶりに開催しました。各種スポーツ・文化体験に加え、サイエンスショー、謎解きイベントなど楽しく学べる企画を実施し、キャンパスに笑顔があふれるにぎやかな一日になりました。



### テニス部の中村天音さんが全日本テニス選手権西日本大会で優勝

9月16日、ブルボンビーンズドームで行われた第97回全日本テニス選手権西日本大会の女子シングルス決勝で、体育会テニス部の中村天音さん(文学部4年次生)が7-5、7-5のストレートで勝利し、優勝しました。

テニス部は9月11日に江坂テニスセンターで行われた関西大学対抗テニスリーグ戦(女子1部)でも姫路大学に4-1で勝利。5勝0敗でリーグ連覇を果たしました。



優勝に笑顔の中村天音さん。(写真提供：本人)

### 器械体操部が53年ぶりに1部昇格

8月22日に開催された第76回全日本学生体操競技選手権大会2部男子団体総合で、体育会器械体操部男子が準優勝。これにより、53年ぶりに1部昇格を果たしました。



1部昇格の器械体操部。(写真提供：同部)

よもやまばなし

よもやまばなし

## 関大人 四方山話 ◆「茶道の心を日常生活に」

外国語学部教授 高橋 絹子



私は幼いころから慌て者で、そのことを強く自覚していた私は少しでも落ち着いた人になるため、中学2年生の時から裏千家茶道を習っています。数十年の時が流れた今も残念ながら相変わらず慌て者ですが、茶道はずっと続けていて専門の英語や通訳研究同様、生活の大きな部分を占めています。いつも騒々しい私からは想像できないかもしれませんが、授業のはじめには「ご機嫌よろしゅうございます」と茶道の師範にご挨拶を申し上げるように挨拶しています。それ以外は茶道にはあまりいつかわしくありませんが、研究室に私を訪ねてい

らした方には、必ずお菓子とお抹茶を差し上げています。その時、茶道のことについていろいろと質問されることもあり、そういう時はつい嬉しくなり話に花を咲かせてしまいます。せめて少しでも普段の暮らしの中で茶道の精神を伝えることができたいと思っています。是非、皆さんも疲れた時には一服召し上がりにいらしてください。そう言えば、プレゼンテーションをする学生さんたちにも「聞いている人にお尻を向けてはいけません！」とよく言っていますが、これもお茶室での決まり事の一つです。研究室でお待ちいたしております。

Knowing that I was absent-minded as a child, I decided to take up tea ceremony in my early teens. I hoped that by immersing myself in the quiet tradition, it would help me to become a more focused and peaceful person. Since then, I have been learning tea ceremony for several decades, and, strangely enough, I am still as absent-minded as ever! Nevertheless, I would still say that tea ceremony has become just as much a part of my life as English and research activities. For people who know me well, it might be hard to believe, but I really am a tea ceremony person at heart. At the beginning of each class, I always greet my students with "Go-kigen yoroshu gozaimasu," which could be loosely translated as "Hello, how are you?" as I do when entering a tea ceremony room.

Additionally, I like to offer macha (powdered green tea) and sweets to anyone who visits my office and treat it as if it were a mini tea ceremony. Some of them ask me questions about it, which inspires me to go into the topic at length. It is my wish to convey the spirit of the tea ceremony, even if only a little, in our daily lives. Another example is in the classroom. When my students give presentations, I sometimes say to them, "Don't turn your back to the audience while you are talking," as it is an important principle of tea ceremony. In any case, if you are feeling weary and need a break, why don't you come to my office to find out more? I look forward to serving you macha and sweets. You are welcome anytime.

## 編集後記

今月号は3年ぶりに千里山キャンパスで開催される関西大学統一学園祭を特集しました。統一学園祭のキャンパス開催を経験していない20年度入学生も、もう3年次生となりました。学園祭実行委員の皆さんが、対面実施のためのさまざまなノウハウの継承に苦労したであろうことは想像に難くありません。まさにゼロから作り上げたと言えるでしょう。今回の催しが学園祭実行委員だけでなく、学園祭参加者にとっても、自身の大学生活における、新たな側面を発見するきっかけとなることを切に願っています。(広報委員・社会学部准教授 秋山隆)



## 関西大学通信 "KANDAI STYLE"

発行日:2022年11月1日

発行:関西大学広報委員会

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

電話:06-6368-1121(大代表)

関西大学は2022年に大学昇格100年を迎えました

今月の表紙

第45回関西大学統一学園祭実行委員の皆さん

感染拡大予防策を講じた上で、取材や制作を行っています。